

仮想アース Crystal E の導入(29)(HP 収載)

—ハイレゾ音源—

1. 始めに

前報(28)に引き続き、試聴音源を替えて、ハイレゾ音源で仮想アースの効果を確認します。

2. 仮想アースの製作と試聴

これまで仮想アースの効果はアナログ音源の他、種々のメディアの音源で確認してきましたが、ハイレゾファイル音源での試聴は行っていませんでした。

今回、下記の再生経路でハイレゾファイル音源での試聴を行います。

fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→TruPhase

Brooklyn DAC+には Crystal E を、スピーカーケーブルの途中には前報(27)で報告しましたように自作の仮想アースを使用しています。

ハイレゾファイル音源は fidata HFAS1-S10 に収納したステレオサウンド社の 11.2MHzDSD 音源と Universal Music 社の MQA 音源を fidata アプリで読み出し、USB 経由で Brooklyn DAC+に送り出して再生します。

3. 仮想アースの試聴結果

ステレオサウンド社の 11.2MHzDSD 音源は次のものを再生しました。

シュタルケルによるバッハの無伴奏チェロ組曲では、ボウイングの様子がリアルに捉えられ、胴鳴りはその余韻まで明瞭になっています。

エルネスト・アンセルメ指揮コヴェントガーデン王立歌劇場管弦楽団のロイヤルバレエガラコンサートでは、バレエ音楽らしい華やかな音楽が、アンセルメの指揮の下、DSDらしい密度感のある色彩感を以って演奏されます。

イシュトヴァン・ケルテス指揮ウィーンフィルのドボルザークの交響曲第9番新世界では、ケルテスらしい豪快で緻密な演奏が 11.2MHzDSD の特性として活かされて再生されます。

以上、ステレオサウンド社の 11.2MHzDSD 音源としては、これまでにないアナログマスターから移植した DSD 音源の良さが活かされてきました。

Universal Music 社の MQA 音源は次のものを再生しました。

カール・ベーム指揮ウィーンフィルのモーツアルトのレクイエムでは、合唱の分離と協和、定位の確かさ、通奏低音の明瞭さ、ソリスト達の声の質感などが、これまでの印象と随分違ってきています。

ヴィルヘルム・バックハウス（ピアノ）とカール・ベーム指揮ウィーンフィルのブラームスのピアノ協奏曲 2 番では、バックハウスの恐らくはベーゼンドルファーの重厚な音でブラームスはかくあるべきとの表現が感じられます。ベーム指揮ウィーンフィルも厚みと深みのあるオーケストレーションで、バックハウスのピアノリズムとともにメランコリックなロマンチズムを表現しています。

ラファエル・クーベリック指揮ベルリンフィルのドボルザークの交響曲第 8 番・第 9 番では、端正で構成のしっかりした音楽のつくりで、牧歌的で抒情性のある演奏です。第 9 番は先のケルテスの 11.2MHzDSD 音源の情熱溢れる演奏に対し、端正で落ち着いた演奏になっています。こういった演奏の違いも如実に把握できます。以上、Universal Music 社の MQA 音源としては、これまでになくアナログマスターから移植した MQA 音源の真価が現れてきました。

なお、以上のうち、シュタルケル以外は、Brooklyn DAC+で位相を反転させています。

4. まとめ

DSD および MQA のハイレゾ音源の試聴において仮想アースの効果が確認できました。

以上